

## 御食国若狭おばま観光まちづくり戦略(案)に関する市民パブリックコメントの結果

○意見の募集期間 令和4年5月24日～6月12日

○意見数 提出者6名(提出意見のべ22件)

### 【提出された意見の概要および市の考え方】

番号	意見の概要	意見に対する市の考え方
1-1	<p>1. はじめに</p> <p>私事となりますが、8年前に出張中にくも膜下出血を発症し、10カ月の入院となりましたが、観音さんと家族や医療・福祉分野をはじめ地域の皆さんに恩返しをしないとと考えています。</p> <p>ですが、寺の事や地域の様々な分野の活動など、何とかしたいと頭を使う対象が有り、草引きなど身体を動かす対象が有る事は、幸せなことと感じています。自由に飛び回る事は出来ていませんが、本を読んだり、youtubeを見るなど前より良く勉強しているなあと感じています。</p>	
1-2	<p>2. 観光とは</p> <p>観光とは、世の中の光＝その地域の光を観ていただくものです。美しいものを見て、美味しいものを食べて頂き、我々の来し方と行く末を考えて頂く事が出来ればと考えます。</p> <p>小浜が一番賑やかだったのは、室町時代や戦国時代、北国船に加え南蛮船や中国船が行き来した時代と言われます。多くの物資が行き交い、人と情報が入り都等に渡って行った事でしょう。</p> <p>24年春の北陸新幹線敦賀開業も、そうした人とカネ</p>	<p>2024年春に北陸新幹線が敦賀まで延伸することで、本市を訪れる人の増加が予想されますので、市では、市民の気運醸成や受入体制の整備が必要と考えています。</p> <p>ご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

	<p>と情報が活発に行き来する、そんな機会にしていきたいと考えます。東北新幹線の青森開業で一番賑やかだったのは、青森駅から1時間程度かかる弘前市だったと言われています。首都圏を始め、全国&amp;世界中の方に、こちらに足を運んで頂き、楽しんで頂きたいと考えます。</p>	
1-3	<p>3. 元気な地域の姿を見せる</p> <p>「72の法則」という法則があります。預金が倍の金額になる為の年数を表した法則ですが、平成の始め=30年前には、銀行や郵便局に10年少し預けておけば、100万円が200万円になりました。今は金利がほとんどつかなくなりましたが、「人類の最大の発明は複利」というアインシュタインの言葉に現在を生きる私たちはどう応えるかが問われています。給料の幾分かを先取り貯蓄して、iDeCoや積み立てNISA等を使って、長期&amp;分散してインデックス投資することを、地域の文化に出来ないものかと考えます。但し、この10年は、アメリカ株が絶好調でしたが、これからもそれが続くかは誰にもわかりませんし、暴落の局面も出てきます。しかし、世界の人口は増えていく事が予想されますので、その拡大に乗っていく。ドルコスト平均法で、同じ金額でも下がった時には沢山買って、取得価格を下げていく事ができますので、淡々と買って行く事が大切だと言われています。若い時から準備しておけば、老後2000万円問題にも余裕で対処できます。準備が不十分な方は、出来れば60歳代は働いて、65歳からの年金をそれ以降に繰り下げ受給すれば、毎月の年金で生活できる可能性が高まります。</p> <p>所得代替率とは、公的年金（厚生年金）の給付水準を示す指標（現役男子の平均手取り収入額に対する年金額の比率で表される）ですが、2019年度は61.7%で</p>	<p>本戦略においては、サステナブル（持続可能）に対する関心の高まりや観光のあり方について、「3.1観光コンセプト」や「3.4サステナブル・ツーリズムの導入」で明記しており、地域の生活を持続させるためのバランスを維持しながら観光を進めていくことが重要であると考えています。</p>

したが、最も悲観的なケースで37%、最も楽観的なケースで51.9%になると推計されています。国庫からの補助等を増やすとしても、少子高齢化は進み、2020年に6404万人いる労働人口が、2065年には3946万人になると推計されています。サザエさんのお父さんの波平さんは、55歳定年制の54歳。今の定年は65歳から更に後ろ倒し予定です。「昭和」の様に年金だけで老後の生活が賄える時代は終わり、「Japan as No.1」の時代はとっくに過ぎ、日本は先進国の座から滑り落ちたと考えるべきです。

従業員5人以下の小さな会社や寺院などの法人も（法人の負担が出てきますが）社会保険&厚生年金に加入する事が出来ます。厚生年金+iDeco等で大手企業に負けない老後対策になり、iDeco+で法人拠出金を出す事で人材確保に繋げる事も可能ですし、大手企業に負けない老後対策となります。配偶者を扶養する事ができますし、60歳代に厚生年金を払う事で年金を増額する事が出来、退職金取得の翌年の国保料の金額を抑える事も可能です。

何れにしても、投機ではなく投資する文化を育てていければと考えます。地域の金融機関には、アメリカのETFやネット証券に負けないだけの良質の商品を提供して頂きたいと考えます。

また、この地域に来て頂くだけでなく、youtubeなどネットを使って、お客さんを呼び込む事にも挑戦していきたいです。また、地域でyoutube等のネットワークを作りたいです。

現在、若い人ほどテレビの地上波を見ないと言われていますが、数十年前にエンターテイメントの中心が映画などからテレビの地上波に移った様な大きな変化が進行

	<p>しています。その変化に乗り、出来れば先導する存在で有りたいものです。youtubeなどを使えば、誰もが発信できますし、誰もが自分達と地域の将来をサステナブル（持続可能）な存在とする為に賭けていく事が大切と考えます。</p>	
1-4	<p>4. 具体的観光戦略</p> <p>若狭おばまの強みはいくつも有りますが、それぞれを磨いていく事が大切です。よく、特徴がたくさん有すぎて絞りきれないという声を聞きますが、例えば京都が「特徴がありすぎて、絞り切れない」と言うのを聞いた事はありません。全体を網羅しつつ、その時々重点を絞っていく事が、大切かと感じます。</p> <p>個人的には、寺社仏閣を活かして、祈りの地域＝みほとけの里を作れないかと考えます。</p> <p>数年間に、小浜市文化課が主管して旭座で行われた「日本遺産大学」で講師をされた文化庁の調査官の先生が、「観光などで外の地域の方と深く付き合っていく為には、四季の移り変わりや人々の様々な行事など、フェノロジーカレンダーを書き留め、発信していく事が大切」と講演されました。その際に、「俳句の歳時記そのものですね」とお伝えしましたが、生活に根ざした文化の力を活かして、発信していく事の大切さを感じます。発信する手段を持って居る事は大切ですし、認知症予防にも効果抜群ですので、各地域や介護施設等でも俳句等の文化活動に取り組んで頂きたいと考えます。</p> <p>お寺に季節の花はよく合いますので、花の寺の取り組みを進めていきたいと考えています。</p> <p>福井県政策参与に就任された進士五十八前県立大学学長はスピリチュアル・ツーリズムを推奨されています。御朱印で地域を廻ってもらう取り組みや、北近畿の寺から</p>	<p>本戦略では、「6.2エリア設定の考え方」に記載してあるとおり、3つのエリアを設定し、エリアごとに定めた重点プロジェクトを進めることで、小浜を訪れた観光客の満足度と地域活性化の効果を最大化することを目指しております。</p> <p>寺社仏閣の周遊については、小浜八ヶ寺巡りの取り組みを進めており、御朱印を生かした取り組みについても、「6.4里山エリアの重点プロジェクト」に追記させていただきます。</p>

	誘われて羽賀寺や多田寺で朱印帳見開きサイズの特別御朱印（一枚千円）を作っていますが、御朱印マップや御朱印巡りが出来ないものではないでしょうか。（今は、全国で、御朱印集めの会が出来、フェイスブックなどでグループを作っておられますので、連携しています）	
1-5	<p>5. 北陸新幹線敦賀開業に合わせて</p> <p>敦賀開業が、いよいよ2年後に迫ってきました。首都圏を始め多くの方が嶺南を訪れる事でしょう。その皆さんに何を提供出来るかが問われています。</p> <p>5月19日の福井新聞に、福祉を中心に嶺北の市町が集まり、県内開業に合わせて二次交通利用促進に向けたアプリ構築を図る、官民一体となった「ふくいMaaS協議会」の設立総会が開かれたという記事が出ていました。昨年、「県内でMaaSを進めて欲しい」と県会議員や県嶺南振興局に直接お願いしましたので、嶺南地域でも「MaaS」の取組みが行われると考えていますが、観光のお客さんだけでなく、地域住民も使いたくなるアプリをいかに作っていくかが大切です。</p>	<p>北陸新幹線が敦賀まで延伸することで、首都圏や北関東、北信越等からの公共交通機関を利用した来訪が増えると予想されることから、二次交通の確保が重要であると考えており、「6.6里海・里山・まちエリアの周遊促進」において位置付けております。</p> <p>また、MaaSの採用につきましては、広域的な観点から検討を進めております。</p> <p>ご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
1-6	<p>6. まとめにかえて</p> <p>いずれにしても、持続可能な（サステナブルな）地域の姿をどう作り上げ、どう見せていくか？私たちの力が問われていると考えます。</p>	
2-1	<p>○小浜での第一印象について</p> <p>ターゲット層がどうであれ、初訪問客には最初の短時間での印象が残ります。バスや自家用車で各エリアに到着すれば爽やかな印象を持たれ気分もリフレッシュでき、その後他のエリアへも興味がわくと思います。しかし、何とか乗りついで小浜駅に到着したものの駅は殺風景でインフォメーションが道を渡って面倒だったり、IC</p>	<p>おもてなしの提供については、本戦略の「4.3一般社団法人若狭おばま観光協会」に明記しており、各種関係事業者と連携しながら、観光客のニーズやインバウンドの受け入れ方法等を学ぶ場を整備するなど、地域全体のおもてなし力の向上に努めていきたいと考えています。</p>

	<p>を降りて道の駅併設の食事の注文方法が煩雑だったり、その後挽回する体験が無いと小浜への印象が厳しくなるかと思えます。それぞれに場所の制約があると察しますし、多少の不便は覚悟の上での来訪と思えますが、せめて次のステップにスムーズに移行できるおもてなしを提供していただきたいものです。個人旅行の不便さを住民の温かさが助ける事もありますが、住民が出向かない場所ではそれは実現しません（おくどさんの改善案はグルメサイトにて投稿させていただいています）。</p>	
2-2	<p>○寺院集客について  明通寺での演奏会、羽賀寺でのイベントやオリジナル御朱印、等、今後の寺社のありかたを模索する住職様らも増えていますが大きなイベント以外はPRが各寺社の発信に任されているのではないのでしょうか。京都の様に観光地化されていない古寺社へのニーズはありますので、アクセス方法の周知やタクシー周遊の割引等、工夫する余地はあると思えます。</p>	<p>小浜市では、観光施設等を巡るために必要不可欠な二次交通の補完を目的に、観光周遊タクシーの割引を行っており、今後も効果的に実施してまいりたいと考えております。</p> <p>本戦略においては、「6.4里山エリアの重点プログラム」の中で寺社仏閣の新たな価値の創出について、「6.6里海・里山・まちエリアの周遊促進」の中で新たな交通手段による交通アクセスの改善について、それぞれ記載しており、寺社仏閣の情報や観光タクシーの割引については、ご意見のとおり、広く周知を図りたいと考えています。</p>
2-3	<p>○里海エリアについて  主に関西からの若い世代～ファミリー世代が将来も小浜市内でしっかり消費いただけるよう、あと少しの工夫が必要と思えます。SUP de ビーチクリーンに昨年から参加していますが日帰りの方は手軽な昼食を探すので西津ママストアやコンビニをお勧めしています。夏場だけでもキッチンカーに補助を出し来ていただければ、日帰り客やサイクリング、バイク通過者にも利用していただけるのでは。ゴミが問題ですがテイクアウト提供と同時に呼</p>	<p>里海エリアにつきましては、若狭の海や海産物を目的として、本市の中でも特に集客力が高い地域と考えております。</p> <p>ご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>また、西津橋等の通行止めや通行止めによる周遊低下を招くことのないよう、迂回路等の情報発信についてし</p>

	<p>びかけ回収すれば他のゴミの減量にもつながると思います。多世代への丁寧な対応で次は宿泊滞在へと繋がると期待します。</p> <p>西津橋等通行止めによる経路変更でマリンレジャー客が市内に立ち寄る確率が低下すると予想されます。事故・混雑防止も兼ね経路表示やレジャー客への事前周知、発信が必要です。</p>	<p>っかり周知してまいります。</p>
2-4	<p>○文化芸術学術との関連</p> <p>「戦略」には旭座の活用等が記載され、今後も更なる集客改善を期待するところですが、観劇やコンサート、学会などと観光の組み合わせは他県で広く行われております。その様な目的での来訪は比較的資金に余裕がある方によるので、食事物販で消費していただき次はゆっくりと来ていただけるようなプランを、イベント主催者と観光側で協力できれば効果的ではと思います。例えば昨年の若狭小浜第九演奏会には名古屋、滋賀、舞鶴からも来場いただき、また招致した交響楽団のメンバーも旅慣れており日帰りながらお寿司等購入されたそうで、実行委員会からも観光パンフとポストカードをお渡ししました。イベント主催側はどうしても準備で手いっぱいにはなりますが、小浜にまとまって人が来るチャンスを逃さない意識が必要と思います。</p>	<p>文化・芸術・学術と観光は一体的なものであり、その連携は重要であることから、各種団体との連携に努めてまいります。</p> <p>ご意見につきましては、今後の具体的な取り組みの中で参考とさせていただきます。</p>
2-5	<p>○まちの駅</p> <p>レトロバスについて記載がありませんが、交通手段の改善の一環に期待します。</p> <p>TetokiとCafeseasonsでまちの駅の健康的なイメージが定着したと思いますが、tetokiが終了しその後、発信力ある若い世代の市民が気軽に立ち寄れる場所になるのか心配です。また杉田玄白の資料が見やすく活用されることを期待します。</p>	<p>レトロバスについては、新たな交通手段によるアクセスの改善の中で、今後の位置付けを検討してまいります。</p> <p>まちの駅の更なる活用は重要だと考えており、本戦略においても「6.5まちエリアの重点プロジェクト」において記載しております。</p> <p>ご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます</p>

	<p>イベント告知が遅く、例えば8K中継イベントもホームページに掲載されていません。</p>	<p>ます。</p>
2-6	<p>○鯖街道ミュージアム 「鯖街道ミュージアム」と検索すると熊川の方がヒットし、小浜のミュージアムは市ホームページの紹介のみです。ホームページが必須という訳ではありませんが、鯖街道イベント以外どう活用されているのか不明です。</p>	<p>小浜市鯖街道ミュージアムは、鯖街道の起点に設けた日本遺産ガイダンス施設で、案内人が常駐しています。イベント開催時以外は、こちらで日本遺産「鯖街道」や市内文化財を説明し、市内周遊の起点となる機能を持った施設です。</p> <p>また、小浜市ホームページ以外でも、若狭おばま観光協会、ふくいドットコム（福井県観光連盟）のwebサイトなどでご紹介いただいています。</p>
2-7	<p>○発信全般について 今回改めて観光関連のホームページを見ますと素晴らしい動画も増えており、それがSNSで紹介される頻度が少なく、改善すれば周知できると思います。上記「寺院集客」にも記載しましたが、公的施設、一般事業所とも、各所発信の整備不整備のばらつきはあるものの素材は沢山あるので合わせて観光協会から、次の週末は小浜でこんなこと、とどんどん発信していただければと思います。</p>	<p>本戦略において、情報発信について、「5.3プロモーション戦略」に明記しております。具体的には各ポータルサイトや運用するSNSを通じて、小浜のフレッシュでローカルな情報を発信していきます。</p>
3-1	<p>これまで積み重ねてきた食のまちづくりや食文化館の活用についての記述が少ないように思います。 以前に嶺南サイクリングルートの整備について新聞で拝見しましたが、その内容についても記述がなかったと思います。 小浜が誇る食のまちづくりやサイクリングと食につなげる内容についての記載を考えていただければ幸いです。</p>	<p>「食のまちづくり」や「食文化館」における取り組みについて、 「1.1戦略の趣旨」 「2.3小浜市の観光の概況」 「2.4課題の整理」 「4.2DMO（株式会社まちづくり小浜「おばま観光局」）」 「5.2「御食国」と「鯖街道」の世界水準のブランド確立」</p>



		<p>「6.3里海エリアの重点プログラム」  「6.6里山・里海・まちエリアの周遊促進」  上記の項目に追記します。</p>
		<p>サイクリングと食につながる取り組みについて、「7.1若狭地方が一体となった誘客」に追記します。</p>
4-1	<p>小浜市には歴史、文化、伝統工芸品など様々な「本物」があると思います。  小浜の「本物」については、パンフレットや動画など積極的にPRを行っていただいておりますが、観光客が小浜に来て作品が何処にあるのか分からないのではと考えております。  まちなかの空き家などを活用し、伝統工芸などの作品展示ができる場があれば観光客にも知ってもらえると思います。小浜の本物に触れる仕組みづくりについて検討をお願いします。</p>	<p>本戦略では、本市の最大の魅力を「御食国」としていにしえより都とつながり、「鯖街道」の往来を通じて発展してきた湊町・小浜の「本物 (Authentic) の暮らし」が今なお息づいていることだと位置付け、具体的なプロジェクトを定めております。ご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
5-1	<p>1) 川崎地区のエリアの名称を統一は良いとおもいます  「川崎」の名称は神奈川県川崎市のイメージが強く今でも違和感があります。「かわそ」が良いのでは。</p>	<p>本戦略において、「6.3里海エリアの重点プロジェクト」に記載のとおり、エリア名称の統一とサインの統一について検討する必要があると考えております。  ご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
5-2	<p>2) 観光施設と地域住民の関係が薄いとおもいます  小学生の頃、三重県鳥羽市に住んでいましたが、毎年1回、鳥羽水族館やミキモト真珠島の無料入場ができました。国内有数の施設を毎年利用できることは子供心に楽しみで観光施設の素晴らしさを体感できました。元々小浜市の観光施設で有料のものは少ないですが、例えば、蘇洞門めぐり観光船に何度も乗った市民は少ないと</p>	<p>市民が小浜市の観光を体験することで、シビックプライドが醸成され、ゆくゆくは観光客の満足度の向上やリピーターの獲得につながることを考えられます。  本戦略の「3.3市民の意識醸成と受入態勢の整備」に記載のとおり、本市の観光は地域がこれまでに先人から受け継いできた資源を活用するものであり、その活用にあ</p>

	おもいます。小鯛笹漬けや甘鯛など高価な食材について、もっと市民が接するような機会を作ったり、市民が市内の民宿に泊まることを補助するなど、まず市民が小浜市の観光を楽しめるようにすれば、そこから広がる繋がりもあると思われます。	たっては地域住民の理解が重要であると考えておりません。ご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
6-1	小浜市は御食国としてのウリとお水送り、鯖街道、そしてお寺の多さが他の市町と比べて観光客に対してアピール出来る場所だと思っています。	いただいたご意見のとおり、「御食国」や「鯖街道」としての深い歴史や、優れた寺社仏閣群、伝統行事である「お水送り」などが本市の観光の強みとして挙げられます。今後は本戦略の「3.1観光コンセプト」に明記してあるコンセプトに沿って、これらの観光資源を活かした観光を推進していきます。
6-2	鯖街道は全線舗装されたこともあり、おにゅう峠からの雲海や紅葉を見に来る人が増えてきております。これはSNSの力もあると思います。雲海はその日によって出るかどうか分からないものなのでツアー化は難しいと思いますが、京阪神から来てる人が多いので、その観光客を是非小浜市側にも流れるようにアピールしたいところです。 今は滋賀県の針畑から上がってきてそのまま滋賀県に戻る人が多いです。10月半ばから11月末まで期間限定で食文化館、濱の四季をオープンさせると来てくれるかもしれません。	本戦略において、小浜を訪れる観光客に向けた旅行商品の造成と販売については、「6.6里山・里海・まちエリアの周遊促進〇鯖街道トラベルプロジェクト」でおばま観光局における旅行業の開設の検討を明記しており、小浜だからこそ体験できるツアーなどを検討していきます。
6-3	お水送りに関しては、このままでいいと思います。	今後も伝統神事である「お水送り」を積極的にPRするとともに、観光誘客に資する地域行事への支援などを通じ、観光交流人口を拡大し、地域経済の活性化を図っていきます。

6-4	<p>お寺はいっぱいあるので、観光客はどこに行っていいいのか分からないと思うので、武生のナイフビレッジのような施設があるとどこのお寺に行こうかプランを立てやすいと思います。小浜市内にあるお寺を一つの施設で見れる箱モノがあるといいと思います。</p>	<p>市内の寺社仏閣の情報については、「6.4里山エリアの重点プロジェクト」に追記し、webやパンフレットなどあらゆる媒体を使って情報発信を進めていきます。</p> <p>ご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
6-5	<p>コロナ以降、アウトドアを楽しむ人が増えたと思います。釣りや登山客は本当に増えています。</p> <p>先日は名古屋の名鉄観光が三十三間山に登山ツアーを企画して登っておりました。三十三間山は危険箇所もなく登りやすい山なのでツアーを企画しやすいんだと思いますが、修験道が開山した多田ヶ岳も素晴らしい山だと思っています。多田ヶ岳の登山道を整備するともっともっと登山客は増えると思います。百里ヶ岳も滋賀県側からの登山客は多いですが、山頂の木が伸びており眺望は悪いです。百里見渡せることからついた名前の山ですが今は残念なことになっています。</p> <p>小浜市側の地権者は根来の人らしいですが、滋賀県側は高島氏の企業と聞いています。是非、その企業と話をして山頂の木の伐採をして欲しいところです。</p> <p>他にも、百里ヶ岳から続く尾根を整備して若狭トレイルを開発すれば、もっともっと登山客は増えると思います。</p> <p>そして上根来に上水道を引いて、空き家を利用した宿泊施設を作ればきっと観光客は増えると思います。</p>	<p>本戦略においては、「御食国」と「鯖街道」は観光客が本市を訪れる最大の動機であると分析しており、「6.7 京都とのつながりの強化」に記載のとおり、官民を挙げて、ルート上のサインの統一など、観光客が「鯖街道」を歩ける環境の整備やガイドツアーの造成などを進めていきます。</p> <p>ご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>